

日時：平成27年(2015年)9月1日(火) 14:00～16:45

場所：市役所 3-3 会議室

欠席委員：なし

傍聴希望者：1名

委員長	<p>開会</p> <p>では、第6回宝塚市行政評価委員会を始める。</p>
委員長	<p>傍聴希望者の確認</p> <p>傍聴希望者はあるか。</p>
事務局	<p>本日の傍聴希望者は1名である。</p> <p><傍聴希望者入室></p>
委員長	<p>議題1「行政評価委員会のまとめ等について」</p> <p>では、議題1「行政評価委員会のまとめ等について」に審議を始める。前回の委員会でご意見をいただいた第4回行政評価委員会の議事録及びまとめの修正版について確認する。</p> <p>< 第4回行政評価委員会の議事録及びまとめの修正版について確認 ></p>
委員長	<p>では、次に第5回行政評価委員会の議事録について、各委員修正等ないか確認する。</p>
委員	<p>< 第5回行政評価委員会の議事録について修正等意見 ></p>
委員長	<p>では、次に第5回行政評価委員会のまとめについて、各委員修正等ないか確認する。</p>
委員	<p>< 第5回行政評価委員会のまとめについて修正等意見 ></p>
委員長	<p>議題2 行政評価委員会の総評等について</p> <p>では、議題2「行政評価委員会の総評等について」に審議を始める。</p> <p>「平成26年度の施策評価について」の案をお配りしているので、この資料を元に、各委員意見・講評をお願いします。</p> <p><各委員 順に意見・講評について発言></p>

委員長	構成としては、総評等、昨年度評価のヒアリング結果、今年度の評価の3部構成となっている。
委員	委員会での評価について、行政評価の目的は、住民の満足度の向上と財政の健全化が主なものであると考えるが、宝塚市の行政評価は住民満足度の向上を重きに置いている。今後は、財政の健全化の視点にも力を入れ、評価をしていく必要があるのではないかと。また、将来的には、施策の重要度により、評価施策を選択し、深く掘り下げて評価していく手法も検討していく必要があるのではないかと。
委員長	総評の中で、財政の健全化についても十分意識して取組を進める必要がある等の意見を付けることは可能であるが、行政評価委員会は、全体的な健康診断の役割が主であり、市政全体のバランスを見ながら、異常な点を見つけることが私たちの任務である。市民の意見を取り入れて策定された総合計画が、絵に描いた餅に終わらないよう、基本計画の成果を見ていくことが期待されている。特化した議論や掘り下げた財政の議論を行うのであれば、別の委員会を設け、そちらで深く議論してもらう方が良いと考えている。
委員	昨年度も委員会として意見を述べているが、総合計画より個別計画に基づいて取組が行われていると考えられる場合が多いことや個別計画間の総合調整といった課題については、改めて強く意見したい。内部評価の課題と改善点として、委託事業の実態が見えにくいという点についても昨年度同様、指摘したい。また、今年度、新たな試みとして、昨年度の評価に対するヒアリングを行ったが、納得した答えが得られない場面も多かったため、精度を上げていただければよいと思う。
委員	現在、総合計画後期基本計画の策定に取り組まれているところであるが、委員会の意見を各部署で共有し、計画策定に生かしていただきたい。
委員	行政評価は、現状分析を行い、財政状況や課題等を認識した上で行うことが必要であることから、委員会でより詳細な情報を共有した上で評価ができないか検討も必要があると感じる。一般会計では、減価償却費を計上しないこととなっているが、減価償却費を計上する仕組みを作ることも可能であると思うので、検討いただきたい。また、事務事業の人件費については、正規職員1人あたり約900万円として計算されているが、私の試算では、金額がもっと高くなるので、検証いただきたい。
委員長	財政状況や市政の動きを事前に委員会へレクチャーの上、評価を始めるやり方とする自治体もあるので、今後検討は可能であるとする。
委員長	昨年度評価に対するヒアリングは有意義であったが、時間が経過していることもあり難しい面もあった。評価を行い、その年度の委員会が終わるまでに各部署の考え方を示してもらう方が、より充実した評価ができると思うので、今後の検討課題としたい。
理事	3年かけて評価いただいている状況であり、評価いただく施策も多いことから、評価対象施策を絞ることも合わせて検討していく必要があるとする。現状においても、

	<p>スケジュール的に厳しい状況があり、担当部署の対応についてもきっちり精査する必要があることから、やり方は工夫する必要がある。</p>
委員長	<p>委員会としても1施策約10分で評価するのは、中々、厳しいものがあるので、今後、検討していただきたい。</p>
委員	<p>事業費よりも人件費の方が高いと感じる。現場が政策を理解して動くまでに時間をかけすぎているのではないかと感じる。協働のまちづくりについては、市民の声を行政がどう生かしているかがはっきり見えてこないため、生かし方をより検討していく必要がある。また、市民と行政の間で無駄な取組に対する考え方にギャップがあるように感じるため、意識していただきたい。</p>
委員長	<p>企画した人と実施する人が異なる場合は、スピーディーに取り組めるよう体制を作ることが重要であり、気持ちの面でも、実施する人の意欲を高めることが必要である。</p>
委員	<p>総合計画の基本計画策定において市民に参画してもらうことについて、今後検討が必要ではないかと感じる。市民に情報を共有し、理解してもらった上で、さらに総括していくとなると多大な時間を要する。基本構想の策定でのみ参画してもらう方が適しているのではないかと感じる。総合計画に限らず、市民が参画する段階というのは、市で十分考えていく必要がある。行政評価委員会については、充実した議論ができていると思うが、評価する施策が多いため、どうしても取組状況が悪い部分に指摘が偏り、良い部分の評価があまりできていない。悪い部分の指摘ばかりだと担当部局が守りの発想になってしまい、前向きに考えないことも考えられるため、良い部分の評価も深く議論することで、より充実した施策に繋げてもらうといったことも委員会として考える必要があるのではないかと感じる。そのためにも、評価対象施策を絞ることの検討が必要ではないかと感じる。評価がより有意義なものとなり、職員が元気に取組を進められるようにしていければと思う。</p>
委員長	<p>大規模な市では、全体を広く見る評価も大事である。評価対象を絞って評価した場合、都合の良いものしか出てこず、都合の悪いものは隠れてしまう恐れがある。良い部分の評価することも大事であるが、本委員会は、全体を広く見て、市民が作った計画がうまく進行しているか、遅れや抜けがないか、新しい視点を入れる必要があるか等を見ていく役割を担っていると考えている。</p>
委員	<p>宝塚市の行政評価委員会は他の市に比べ、議論も活発で、比較的うまく機能している方である。うまく機能していない自治体や評価制度自体ができていない自治体もある。4年評価してきて、着実に充実してきたと感じており、宝塚市の誇れるところであると思う。</p>
委員長	<p>個人的には、道路の問題や雨水対策については、強く指摘したい。</p>
委員	<p>宝塚市はボランティアや委員会等で、市民参画の取組を進められているが、活用がうまくできていないと感じる。なぜ、ボランティアに参加してもらうか、目的や課題を共有し、ボランティアをマネジメントすることが重要である。</p>

委員	協働は、協働の条例を作り、周知するだけでは進まない。市民と職員が共に同じ現場に立ち、学習していくことが重要である。長寿ガ丘、月見山の地域公共交通の導入や市民と協働した太陽光発電の取組は協働の良いモデルであり、こうした取組を重ねていくことで、協働の姿が見えてくる。
委員	宝塚市は協働や市民参画を強く謳っているが、市が自信を持ち、時には突っ走ることでもある。市がやること、市民がやることの住み分けを行い、市民を強引にでも引っ張っていく姿勢を見せることも重要である。市民の満足度は、コスト削減を図り、税金使用が抑えられれば、向上に繋がる。評価にかかる資料については、量が多いので、もう少しコンパクトにして、資料を少なくすることを検討いただきたい。市と委員会、お互い議論がしやすく、またお互いの負担軽減にも繋がる。
委員	昨年度の評価に対するヒアリングを行ったが、納得した答えが得られない場面も多かった。評価の方法については、評価対象施策を絞るやり方も一つの案であるが、隠れてしまう部分が出てくることに危惧がある。また、行政評価委員会の評価を議会がどう受け止めているか気になるところである。
委員長	これまで他の自治体の行政評価にも関わってきたので、多くの自治体の議員の反応ということでお話しすると、行政による自己評価や外部による評価はそれぞれ重要であり、必要なものであるが、議会は議会として監視していくと考える傾向にあるようである。行政評価委員会の評価をもっと議員や市民に活用してもらいたいと思う。
理事	本市では、行政評価委員会の評価を参考にして、活用されている議員が複数おられる。4年前から外部評価を導入し、徐々に議員の中にも委員会の評価が広がってきていると感じている。
委員	評価にかかる資料はなるべくコンパクトにして、少なくすることを検討いただきたい。委員として正確に発言する必要があるが、資料が多いと読み込むために相当な時間を要する。
委員長	評価する上では、どれほどのお金を、何に使い、いつ、誰が、どのような業務をしているか、また補助事業なのか直営事業なのか、義務的なものなのか自主的なものなのか、そういった情報が必要となるが、現状の評価表ではそれらの情報が見えにくく、事業の必要性や効率性の判断がしにくいところがある。担当部署に実態を聞いてみると時間を要する。これらの情報がコンパクトにまとめられている資料があればより充実した評価が可能となる。
委員	再掲の事務事業が多く出てくるので、総合計画の枠組みをしっかりとらえ、再掲があまり出ないよう事務事業を考えていく必要がある。
委員長	では、本日の各委員の評価、意見をもとに総評をまとめていきたいと思う。各委員他に意見したいことがあれば、別途、書いて事務局に提出いただきたい。

事務局	9月7日までにメールにて事務局あて提出をお願いしたい。集約の上委員長に提出する。市長への提言は9月15日に行っていただく予定である。
委員長	では第6回行政評価委員会はこれで終了する。ご苦労様でした。